

平成 28 年度の事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から 29 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人居場所創造プロジェクト

1. 事業の成果

設立から 4 年を迎えた 28 年度は、会員、支援員、各種団体等の支援・協力のもと、JPF「共に生きる」ファンド及び年賀寄附金等の助成を受けて、居場所ハウスの組織・運営基盤整備及びコミュニティの形成・支援活動と文化の継承等の各種事業を着実に展開してきたところです。また、「居場所ハウス」の来訪者の中心は末崎町の高齢者ですが、放課後や休日には子供たちが遊びに来たり、多世代の人々が行事に参加しており、一日平均の来訪者数は 20～25 人となっています。(来訪者数 7,211 名、別紙参照)

(1) 組織・運営の継続強化

① 会員・支援メンバーの協力・確保及びパート雇用によるサポート

設立から 4 年目となり、支援者・協力者及びパートの雇用により、多世代がふれ合う場所・楽しむ場所として、町内外・地域住民の来訪・利用者や市外からの見学者等を迎えたことや居場所ハウス各種事業の準備・開催に対応したことは、今後の運営・活動の継続強化の励みとなった。なお、さらに継続運営するためには、「役割」分担を再認識することも必要と考えます。

なお、災害公営住宅・防災集団移転住宅の転居がほぼ完了しており、高齢者・被災者の心身のケアや孤立の防止及びコミュニティの創出のために、居場所ハウスへの期待と役割が大きく要求されることから、運営・活動体制の充実強化を図るためにも、絶対的に支援者・協力者の確保が肝要である。

② 定例会の開催

毎月 1 回、運営状況と翌月の行事や課題及びコアメンバーの当番決定と改善点等について、報告・協議を実施してきた結果、来館しやすい環境改善、食堂の運営やメニューの改善等、建物修繕箇所の提言、メンバーから催事の円滑な開催等に対する質疑・発言も様々出てきているので、円滑な運営・活動のサポートとなっている。気づいた事、運営の改善点については、①食堂メニューの改善による販売②協力員の声掛けによる活動の充実③夜間の会場利用料の新設④居場所農園へのトイレ設置⑤農園の耕作面積等の工夫による活用範囲の拡大⑥催事等に対する参考とする様々な意見交換があった。

今後においても、様々なことについて、何でも遠慮しないで多くの事を話し合うことが、円滑な運営・活動につながると考えます。

なお、定例会の重要性と協議内容の共通把握には、メンバーが一人でも多くが参加できるよう、お互いに行事等に配慮していただき、連絡を密にしながら開催することが肝要と考えます。

また、新たに外部団体にも、定例会に参加してもらい居場所ハウスの運営・活動に対する協力的提案等が話されたので、今後の活動の参考としたい。

③ コアメンバー・協力員及び団体による施設運営・活動支援

一週間のうち 3 日間をパート、3 日間をボランティア協力により(または「6 日間をパートおよびボランティア協力により」)来客の対応や食堂の運営をしてきた。また、朝市や催事等では、コアメンバーやボランティア団体等により施設運営・活動を円滑に実施したところである。このような有効的な体制を構築し、継続するために、今後も、多くの町民の皆さんに対し仲間同志で積極的に声掛けし、協力員の拡大に努め、継続的・効果的な施設運営・催事等を実施することを目指すものとする。

(2) 組織体制の確立と人材育成

NPO 法人居場所創造プロジェクトの運営・活動は、設立から 4 年を迎え、これまでコアメンバーやボラン

ティア団体等によるご支援ご協力により問題解決をしてきたが、組織体制の確立・会計システム等の充実と円滑な推進のため、先進地視察研修等による運営・活動の実状等の見学が不可欠と判断し、1月12日に、石巻市北上町「WE ARE ONE きたかみ」、七ヶ浜町レスキューヤードきずなハウス(15名参加)や9月28日に、花巻市なはんプラザ(調理等研修・8名参加)、10月12日・26日に、釜石市リアスサポートセンター(助成金研修・2名参加)、1月17日に、東京国際フォーラム(寄附セミナー・2名参加)、3月8日遠野市民センター(調理等研修・7名参加)及びシニアパワーいわてによる会計ソフトの指導、当該法人が主催するNPO法人等に対する労務・総務・会計の研修・講習会に参加し、運営・活動のあり方・会計処理方法・助成金の申請方法や食堂メニューの改善等を学んだことは、運営に対する認識・姿勢が前向きになったことや運営基盤の確立には効果的だった。

また、居場所ハウス全般における事業等にも反映され、多世代交流施設の一層の充実・地域コミュニティの形成・地域活性化が図られたものとする。

なお、各種助成金申請書の提出に際しては、日本NPOセンター及び岩手復興センターの職員等による協力・支援があったことは、大いに力強く感じており、今後もつながりを太くし継続申請につなげるのが肝要と考えます。

また、1月26日大船渡市教育委員会主催の「生涯学習推進の集い」に依頼され、居場所ハウスの活動事例を発表したこと、申込みのあった数多くの見学者等に対する運営・活動状況の説明やメディアの取材対応など、数多くの訪問者との出会いは、今後の居場所ハウスの運営・活動の進展に大いに繋がるものと考えています。

(3) 被災者復興支援交流会・朝市合同開催及び居場所ハウス三周年記念感謝祭の開催

4月16日(土)、震災から6年目にあたって、新たな仲間を迎え、孤立の防止やともに住みよい地域を創るとともに、被災者の一日も早い復興のため、被災者復興支援交流会・朝市を合同開催した。

当日は、地元の歌手ローブロー・音楽療法士立花理沙さんのコンサートの出演や臼による餅つき・クルミ餅・うどん・煮しめ・ホタテ焼き・「居場所」オリジナルの焼きそば・焼き鳥コーナー・ソフトクリーム・かき氷・衣料品バザー・フリーマーケット・野菜・郷土食品・花の販売・手作り手芸品等の出店による販売もあって多彩に開催された。被災者約45名の参加があり、もてなしの料理や会話を楽しみながら、親睦交流を深めた。なお、招待者に「居場所ハウス」に対するアンケートをとるとともに、大場氏手作りの表札の希望をとり、24名に寄贈してたいへん喜ばれたところです。

今後も、引き続き災害公営住宅の転居が完了した時点で、四周年記念感謝祭・被災転居復興支援交流会・朝市合同開催を実施し、多世代交流施設居場所ハウスのより一層の普及や地域コミュニティの形成が図られるよう、実施することが肝要と考えます。

6月18日(土)、オープンから三周年を迎え、これまでの運営支援・協力や施設利用への感謝を込めて、三周年記念感謝祭を開催した。オープニングとして祝の餅まき、漆原栄美子・小田代直子さんによる民謡・同町出身の舞踊家さすけ(勇款)さんの出演や新鮮野菜・魚介類・きそば・焼き鳥・衣類・苗などを販売する朝市コーナーのほか、ホタテの炭火焼・大判焼きの出店・フリーマーケットなどが会場内にズラリ並び、多くの来場者で賑わった。

この祭りには、会員や被災者支援員など約50名のメンバーが結集・協力し開催された。好天にも恵まれたことや無料シャトルバスの運行により約500名の参加があり、開始時間前から、町内の子供から高齢者まで多世代の住民が来場し賑わった。その中で、被災者を含め参加者は、前回に増して様々な人々が来場しており、大変有意義で効果的な交流会で終日賑わったところです。

(4) 朝市の開催

近隣地域には、震災から5年を経過したが、気軽に買い物ができる店舗がほとんどない。朝市の開催は、毎月第3土曜日に、毎回10店舗以上の出店があり、居場所ハウスのメンバーやボランティアの皆さん(約15名)の協力により、充実した内容で開催されております。

朝市は、町内外から居場所農園の野菜・生花・衣料品・鮮魚・郷土食品・オリジナル焼き鳥・地域の産品が並ぶ。開催ごとに来場者が増加しており、地域・災害公営住宅住民の生活環境の向上及び親睦交流の場となるとともに、ふれあい場の創出と地域コミュニティの形成に寄与されているものと確信します。

(5) スマイル食堂の開設

震災後、近隣地域には、特に、高齢者被災住民にとっては、気軽に食事ができる場所がほとんどないため、暮らしにくい日常生活となっている。そのことから、2015年5月に食堂をオープンした。居場所ハウスの支援者やボランティアの皆さんの協力及びメニューなどの試行・改善を重ねて、木曜日を除く毎日昼食を提供してきた。徐々に来場者が増加しており、日常生活において地域住民・災害公営住宅住民の日常生活・利便性の向上及び交流の場となっているものとする。(利用者数 2,415名、別紙参照)

今後もメニュー等の改善・運営の努力・一部の地域、災害公営住宅に配達をし、皆さんに喜ばれるスマイル食堂を目指すこととしております。

(6) 居場所農園づくり

居場所ハウスでは、2013年の夏から「居場所農園」をつくり、朝市で販売するため、多種類の野菜をつくり育ててきた。28年度は4月に開園し、体験型農作業を3回実施し、農業の楽しさやコミュニケーションの場づくりとなった。また、体験後は、日常生活への糧となるよう野菜を分配し喜ばれたところです。

今後は、町内及び災害公営住宅入居や防災集団移転で転居してくる人々にも、体験型農作業の開催に向けた声掛けを行い、地域住民と移転者との交流の場や活躍の場の創出と生活支援に努めたい。今後も農園づくりの協力の呼びかけを実施する。

(7) 居場所ハウス納涼盆踊り及び雑祭りとお茶会の開催

①8月15日に納涼盆踊りを開催したところ、曇天であったが約70名の参加者でにぎわった。

地域に伝わる伝統文化・行事を学びながら、末崎町の風土に受け継がれていくことの大切さや地域住民及び被災者と帰省者が楽しみながら交流を深め、日常生活のリフレッシュになったものと確信する。このことは、今後も継続し開催する意義があるものと感じたところです。各コーナー運営は、居場所メンバーと地域の若者やボランティアの皆さんの協力・支援で、手作りうちわ・風船射的・ヨーヨー釣り・ホタテ焼き・焼き鳥・かき氷・ビアガーデンなど、多くのコーナーが開店できたことは、催事の開催に向けた大きな励みとなったところです。

②2月21日の雑祭りとお茶会の開催では、古くから伝わる伝統文化を継承することが大切であるとの思いから、町内住民や仮設住民を対象に開催した。現代の雛人形と昔の土作り雛人形を対比しながら観賞した。同時にお茶の先生をお願いし、親子や来場者を含め、抹茶をいただきながら親子で楽しく絆を深めた雑祭りとなり、45名の参加があった。これらの文化の継承を、工夫を重ねながら積極的に推進して行きたい。

(8) 居場所ハウス・デジタル公民館まっさき共催キッズデーの開催

①8月7日の夏休み親子・祖父母物づくり教室では、どこ竹まっさきの皆さんの協力を得て、親子・祖父母15名参加し、竹細工によるカブトムシや、牛乳パックを使用した、エコトンボづくりを楽しく体験した。このことにより、さらなる親子・祖父母のふれあいを深めるとともに絆をより一層強めたものと思います。

②1月14日の冬休み親子物づくり教室では、防災集団移転者の大場久男さんの協力を得て親子15名が参加して万華鏡を楽しく工作体験し、キツツキ落とし玩具材料を宿題として喜んで持ち帰った。

このことにより、さらなる親子・祖父母の連帯感の醸成やふれあいと絆をより一層強めたものと思う。

(9) 末崎の歴史を学ぶ会

11月20日開催の末崎の歴史を学ぶ会は、末崎の昔を語る会事務局長の新沼紀三氏を講師に開催された。

当日は、町内外から約 30 名の参加があり、興味深い様々な歴史の話に熱心に聴き入っていた。興味深いこともあり、質問も多くあったので、開催した意義は大きかったと感じた。これからも、機会があったら継続して開催して行きたい。

(10) 地域の課題ワークショップ開催

・主催者: IBASHO、日建設計ボランティア部 ・協力者: 居場所ハウス

・開催場所: 居場所ハウス

・経過: 5 回実施、コアメンバーと地域の方々の参加と日建設計ボランティア部平均 5~6 名が来館

地域の中で外出する際に感じる漠然とした不安や助けが必要なこと等、地域の課題を把握・共有し、改善策の検討につなげていくことを目的としているが、今後は多様な方向性を見出し検討することとしている。

特に、地域で抱えている不安・課題を話し合い、地図上に可視化することを通して、具体的な不安として把握・共有していく。また、地域のマップとして作成し、活用することも選択肢としながら完成まで、今後も継続実施することとしている。

(11) 介護・健康講演会

①10 月 30 日に、末崎町ディサービスセンター所長笹野淳子氏と典人会の職員を講師に、介護保険と介護の仕方について講演会を開催したところ、最近の介護・介護の緩和ケア及び介護保険制度の概要について説明があり、18 名の参加がありました。今後は社会背景を直視し、認知症講座を開催する必要性を感じています。

②3 月 3 日に、居場所ハウス主催の健康講演会を、陸前高田市国民健康保険二又診療所長石木幹人氏を講師に開催したところ、町内外から約 40 名の参加があった。先生は日常の食生活の大切さや生活習慣病の治療の大切さと、年を取った人が年を取った人を支えることが大事であることなどを話された。健康で長生きするための貴重な講演・指導となったところです。

(12) 暮らしの困り事・健康相談会

毎月 1 回、特に仮設住宅住民・災害公営住宅の一部入居者・防災集団移転住宅住民に対して、住宅再建の手続きや日常の困り事の支援、健康改善に努め生活環境向上のため、行政書士・元看護師を委嘱し「暮らしの困り事・健康相談会」を開催したところ、11 名の相談があり一定の効果があったものと考えます。

(13) 備品等の寄贈

①ミシン・ミシン台・アイロン(10 万円相当) ⇒黒部ライオンズクラブ

②簡易トイレ(農園設置) ⇒ライフ工業(株)

③冷蔵庫(食堂用・中古品) ⇒公益財団法人共生地域創造財団

④お雛様七段飾り⇒紀室端子氏(小細浦)

(14) 寄付金・助成金等の活用

地域の様々な人々が、誰もが気軽に立ち寄り、自分なりに役割を持ちながら、楽しく自分らしくいられる「居場所」をモットーに建設された、多世代交流施設居場所ハウスの運営・活動に対する助成金により、以下の主な事業を実施した。

※今年度の助成金対象

(1) JPF「共に生きる」ファンド第 26 回助成 1,935,455 円

(2) 東日本大震災の被災者救助・予防 2016 年年賀寄附金助成 3,953,000 円

(3) 東日本大震災現地 NPO 応援基金「一般助成」 2,800,000 円のうち 847,960 円(残りは次年度へ繰越)

①有給ボランティア 4 名及びパート雇用 4~5 名による、日常の施設等の管理・事業運営・朝市販売活動に対

する、給料・賃金を支給した。

・パート給料・有給ボランティア賃金 6,017,500 円・福利厚生費 4,576 円

②一年間のまつり・講習会・教室等の謝礼や必要とする物品、材料等の購入により、一年間の事業開催等の運営・活動を効果的に実施した。

・催事費 604,187 円

③日常的に必要とする一年以上の耐用消耗品及び 10,000 円以上の備品を購入し、運営・活動を行った。

・備品消耗品費 529,772 円(テント、和室用いす、コーヒーマーカー、綿あめ機等)

④一年間のまつり・講習会・教室等のチラシ、ポスター印刷や新聞広告の掲載及びパンフレットの作成をし、各種事業の開催や多世代交流施設居場所ハウスの普及宣伝に努めた。

・印刷製本・広告宣伝費 754,331 円

⑤居場所コミュニティカフェの運営に関わる、コーヒー・ゆず茶・ソフトクリーム等を来館者や行事参加者に提供し、親睦交流やふれあいの場の提供に努めた。

・コミュニティカフェ材料費 221,340 円

(15) イベント及び各種講習会と教室等の開催

①・被災者復興支援交流会・朝市合同開催

・4月16日(土) 9:00~13:00 約45名の参加者

②子どもの日・鯉のぼりまつり

・5月3日(火) 10:00~13:00 末崎保育園児・さすけ(勇款)さん出演による舞踊など、約250名の参加

③「居場所ハウス」オープン三周年記念感謝祭

・6月18日(土) 9:00~13:00 約500名の参加者

④夏休み親子・祖父母物づくり教室の開催

・8月7日(日) 13:00~15:30 15名の参加者

⑤町民・帰省者・被災者支援親睦交流のための納涼盆踊り・夕市合同開催

・8月13日(土) 15:00~20:00 約70名の参加者

⑥介護の仕方・介護保険についての講演会

・10月30日(日) 10:00~12:00 約18名の参加者

⑦新そば打ち体験講習会の開催

・11月12日(土) 10:00~12:00 8名の参加者

⑧末崎の歴史を学ぶ会の開催

・11月20日(日) 13:30~15:30 30名の参加者

⑨親子対象のクリスマスケーキづくり教室の開催

・12月11日(日) 13:00~13:30 20名の参加者

⑩かまもち・ゆべしづくり講習会の開催

・12月18日(日) 13:00~15:00 15名の参加者

⑪冬休み子供映画会・勉強会

・1月10日(火) 13:00~13:30 20名の参加者

⑫冬休み親子物づくり教室の開催

・1月14日(土) 10:00~12:30 15名の参加者

⑬男の料理講習会

・2月26日(日) 10:00~13:00 7名の参加者

⑭健康講演会の開催

・3月3日(金) 13:30~15:00 40名の参加者

⑮雑祭りとお茶会

・2月11日(土) 10:00~12:30 45名の参加者

⑯朝市開催 4月16日(土)のオープンから3月18(土)までの計12回

・毎月第三土曜日9:00~12:00 合計約830名の来場者で賑わった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
地域コミュニティ支援事業	・コミュニティスペースの運営 ・多世代交流イベント・講習会等の開催(別紙資料のとおり)	28年4月1日 ~ 29年3月31日	居場所ハウス	別紙資料のとおり	別紙資料のとおり	10,761
学術、文化、芸術振興推進事業	・図書スペースの提供 ・指導者他を招いて陶芸、音楽活動 ・舞踊、囲碁、雛祭りなど伝統文化の継承	同上	同上	同上	同上	67
情報提供活動事業	・ホームページ、Facebook、チラシ、地方紙、記録誌を活用した広報活動 ・調査、視察を目的とする見学者への対応資料の作成	同上	同上	同上	同上	483
調査、研究事業	居場所ハウス開催のイベント、朝市に対する意識をアンケートで調査し、運営・活動に反映させる	同上	同上	同上	同上	9

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
販売支援事業	・食堂開設による居場所ハウスの運営資金獲得及び地域の高齢者等の生活環境向上支援 ・朝市開催による郷土食品、野菜、衣類等の販売支援	28年4月1日 ~ 29年3月31日	居場所ハウス	15	1,433

平成 28年度 活 動 計 算 書

【税込】(単位：円)

NPO法人「居場所」創造プロジェクト

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	49,000		49,000
賛助会員受取会費	22,500		22,500
会員受取入会金	6,000		6,000
【受取寄付金】			
受取寄付金	426,783		426,783
交流会寄付収益	755,133		755,133
【受取助成金等】			
受取助成金	8,692,345		8,692,345
【事業収益】			
その他事業収益		1,565,663	1,565,663
【その他収益】			
受取 利息	29	7	36
雑 収 益	142,596	3,500	146,096
経常収益 計	10,094,386	1,569,170	11,663,556
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
パート給料(事)	1,672,500	450,000	2,122,500
ボランティア賃金(事)	3,895,000		3,895,000
法定福利費(事)	4,576		4,576
人件費計	5,572,076	450,000	6,022,076
(その他経費)			
業務委託費(事)	194,760		194,760
印刷製本費(事)	270,530		270,530
会 議 費(事)	9,747		9,747
旅費交通費(事)	228,491	11,730	240,221
催事経費(事)	604,187		604,187
通信運搬費(事)	150,014		150,014
消 耗 品 費(事)	213,089	116,756	329,845
食 材 費(事)	7,302	572,470	579,772
居場所カフェ材料費(事)	221,340		221,340
備品消耗品費(事)	529,772	7,676	537,448
修 繕 費(事)	298,080	9,522	307,602
保守管理費(事)	30,920		30,920
水道光熱費(事)	255,314	171,597	426,911
賃 借 料(事)	123,000		123,000
減価償却費(事)	1,902,411		1,902,411
広告宣伝費(事)	483,801		483,801
保 険 料(事)	134,810		134,810
租 税 公 課(事)	3,300	68,600	71,900
研 修 費(事)	5,000		5,000
支払手数料(事)	2,052		2,052
雑 費(事)	80,589	7,322	87,911
農園経費(事)		17,431	17,431
その他経費計	5,748,509	983,104	6,731,613
事業費 計	11,320,585	1,433,104	12,753,689
【管理費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
会 議 費	2,742		2,742

平成 28年度 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人「居場所」創造プロジェクト

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

その他経費計	2,742	0	2,742
管理費 計	2,742	0	2,742
経常費用 計	11,323,327	1,433,104	12,756,431
当期経常増減額	△ 1,228,941	136,066	△ 1,092,875
【経常外収益】			
経常外収益 計	0	0	0
【経常外費用】			
経常外費用 計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 1,228,941	136,066	△ 1,092,875
法人税、住民税及び事業税		61,200	61,200
経理区分振替額	74,866	△ 74,866	0
当期正味財産増減額	△ 1,154,075	0	△ 1,154,075
前期繰越正味財産額	30,193,207	0	30,193,207
次期繰越正味財産額	29,039,132	0	29,039,132

平成 28 年 度 貸 借 対 照 表

NPO法人居場所創造プロジェクト
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成29年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
普通預金	5,468,535		
現金・預金計	<u>5,468,535</u>		
流動資産合計		5,468,535	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物	25,950,336		
什器備品	591,204		
有形固定資産計	<u>26,541,540</u>		
固定資産合計		<u>26,541,540</u>	
資産の部合計			<u>32,010,075</u>
		《負債の部》	
【流動負債】			
前受助成金	2,909,743		
未払法人税等	61,200		
流動負債計	<u>2,970,943</u>		
負債の部合計			2,970,943
		《正味財産の部》	
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	30,193,207		
当期正味財産増減額	<u>△ 1,154,075</u>		
正味財産計		<u>29,039,132</u>	
正味財産の部合計			29,039,132
負債・正味財産合計			<u>32,010,075</u>

計算書類の注記

NPO法人「居場所」創造プロジェクト

平成29年 3月31日 現在

1 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

2 事業費の内訳は別紙のとおりです。

3 使途等が制約された寄付等の内訳

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
JPFファンド	0	1,955,930	1,955,930	0	助成金の総額は1,955,930円です。
年賀寄附金	0	3,953,000	3,953,000	0	助成金の総額は3,953,000円です。
JPF②共に生きる	0	1,935,455	1,935,455	0	助成金の総額は2,893,158円です。 活動計算書に計上した額 1,935,455円との差額957,703円は 前受助成金として貸借対照表上に 負債計上しています。
NPO応援基金	0	847,960	847,960	0	助成金の総額は2,800,000円です。 活動計算書に計上した額 847,960円との差額1,952,040円は 前受助成金として貸借対照表上に 負債計上しています。
合 計	0	8,692,345	8,692,345	0	

4 固定資産の増減内訳

[税込] (単位: 円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(有形固定資産)						
建 物	31,463,061	0	0	31,463,061	△ 5,512,725	25,950,336
什器 備品	2,241,127	0	0	2,241,127	△ 1,649,923	591,204
合 計	33,704,188	0	0	33,704,188	△ 7,162,648	26,541,540

財 産 目 録

NPO法人居場所創造プロジェクト
全事業所

[税込] (単位:円)
平成29年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
普通 預金	5,468,535		
農協 居場所コミュニティ	(2,363,906)		
農協 JPF②共に生きる	(957,703)		
農協 NPO応援基金	(1,952,040)		
農協 朝市食堂事業	(194,886)		
現金・預金 計	<u>5,468,535</u>		
流動資産合計		5,468,535	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建 物	25,950,336		
什器 備品	591,204		
有形固定資産 計	<u>26,541,540</u>		
固定資産合計		<u>26,541,540</u>	
資産の部 合計			32,010,075
		《負債の部》	
【流動負債】			
前受助成金	2,909,743		
JPF②共に生きる	(957,703)		
NPO応援基金	(1,952,040)		
未払法人税等	61,200		
流動負債 計	<u>2,970,943</u>		
負債の部 合計		<u>2,970,943</u>	
正味財産			<u>29,039,132</u>